

コンピテンスの領域ごとの科目達成レベル

レベル (達成度)	Advanced	Applied	Basic			
I. 倫理観とプロフェッショナリズム						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するための態度、倫理観を有して行動できる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたり向上を図ることができる。	診療の場で医師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である	医師としての態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である	基盤となる態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
II. コミュニケーション						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、医療の場で適切なコミュニケーションを実践することができる。	診療の一部として実践できることが単位認定の要件である	模擬診療を実施できることが単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
III. 医学および関連領域の知識						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し応用できる。	診療の場で問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である	知識修得・応用の態度・習慣を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
IV. 診療の実践						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
患者に対して思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な診療を実施できる。	診療の一部として実践できることが単位認定の要件である	模擬診療を実施できることが単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
V. 疾病予防と健康増進						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
保健・医療・福祉の資源を把握・活用し、必要に応じてその改善に努めることができる。	実践できることが単位認定の要件である	理解と計画立案が単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
VI. 科学的探究						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい情報を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。	実践できることが単位認定の要件である	理解と計画立案が単位認定の要件である	計画された研究の見学・基礎となる技術を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない

学年	コース・ユニット名	5			6			
		臨床医学実習 I	生命科学特講Ⅰ ア・ス カ ラ ド バ ン ス	生命科学特講Ⅰ 医 学 英 語 ア ド バ	臨床医学実習 II	臨床医学実習 地域 医 療 実 習	生命科学特講Ⅱ ア ス カ ラ ド バ ン ス	生命科学特講Ⅱ 医 学 英 語 ア ド バ
	ナンバリング・水原コード	481	91	1	482	483	91	1
I. 倫理観とプロフェッショナリズム								
千葉大学医学部学生は、卒業時に								
患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するための態度、倫理観を有して行動できる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたり向上を図ることができる。								
卒業生は：								
1	倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。	A	A	C	A	E	A	C
2	法的責任・規範を遵守する。	A	A	C	A	E	A	C
3	患者の尊厳を尊重し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。	A	E	C	A	E	E	C
4	患者とその関係者の心理・社会的要因と異文化、社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。	A	E	C	A	E	E	C
5	常に自己を評価・管理し、自分の知識、技能、行動に責任を持つことができる。	A	A	C	A	E	A	C
6	専門職連携を実践できる。	A	C	C	A	E	C	C
7	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。	A	A	B	A	E	A	B
8	試験、発表に対する指導、助言ができる。	A	A	C	A	E	A	C
II. コミュニケーション								
千葉大学医学部学生は、卒業時に								
他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、医療の場で適切なコミュニケーションを実践することができる。								
卒業生は：								
1	患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを実践できる。	A	A	C	A	E	A	C
2	コミュニケーションにより、患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報収集、説明と同意、教育など医療の基本を実践できる。	A	A	C	A	E	A	C
3	病歴により医学・医療における情報を入力し、発信できる。	A	A	A	A	E	A	A
III. 医学および関連領域の知識								
千葉大学医学部学生は、卒業時に								
医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し応用できる。								
卒業生は：								
1	正常な構造と機能	A	E	B	A	E	E	B
2	発達、成熟、加齢、死	A	E	B	A	E	E	B
3	心理、行動	A	E	B	A	E	E	B
4	病因、構造と機能の異常	A	E	B	A	B	E	B
5	診断、治療	A	E	B	A	E	E	B
6	医療安全	A	E	B	A	B	E	B
7	疫学、予防	A	E	B	A	B	E	B
8	保健・医療・福祉制度	A	E	B	A	B	E	B
9	医療経済	A	E	B	A	B	E	B
IV. 診療の実践								
千葉大学医学部学生は、卒業時に								
患者に対して思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切な効果的な診療を実施できる。								
卒業生は：								
1	患者の主要な病歴を正確に聴取できる。	A	E	B	A	E	E	B
2	成人及び小児の身体診察と基本的臨床手技を適切に実施できる。	A	E	B	A	E	E	B
3	臨床推論により疾患を診断できる。	A	E	B	A	E	E	B
4	頻度の高い疾患の診断と治療に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	A	E	C	A	E	E	C
5	頻度の高い疾患の適切な治療計画を立てられる。	A	E	C	A	B	E	C
6	医療文書を適切に作成し、プレゼンテーションできる。	A	B	A	A	C	B	A
7	Evidence-based medicine (EBM) を活用し、安全な医療を実施できる。	A	E	C	A	E	E	C
8	病状説明・患者教育に参加できる。	A	E	D	A	E	E	D
9	診断・治療・全身管理に参加できる。	A	E	D	A	E	E	D
V. 疾病予防と健康増進								
千葉大学医学部学生は、卒業時に								
保健・医療・福祉の資源を把握・活用し、必要に応じてその改善に努めることができる。								
卒業生は：								
1	保健・医療・福祉に必要な人材・施設を理解し、それらとの連携ができる。	B	E	D	B	A	E	D
2	健康・福祉に関する問題を評価でき、病後予防・健康増進の活動に参加できる。	B	E	D	B	A	E	D
3	地域医療に参加しプライマリケアを実践できる。	A	F	D	A	A	F	D
4	医療の評価・検証とそれに基づく改善に努めることができる。	B	E	D	B	A	E	D
VI. 科学的探究								
千葉大学医学部学生は、卒業時に								
基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい情報を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。								
卒業生は：								
1	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解する。	D	A	C	D	E	A	C
2	科学的探究で明らかになった新しい知見・高度先進医療を説明できる。	B	A	C	B	E	A	C
3	未知・未解決の臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取組むことができる。	E	A	D	E	E	A	D